別紙資料

第５回みえ県民意識調査　集計結果（概要）

１　幸福感

報告書 5～7頁

（１）日ごろ感じている幸福感

現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を１０点、「とても不幸」を０点とすると、何点くらいになると思いますか。

※第1回調査から継続して質問しています。

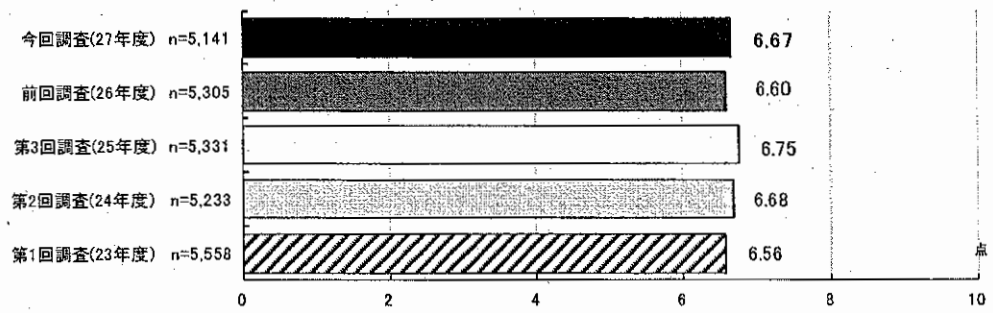
県民の皆さんが日ごろ感じている幸福感（以下「幸福感」と記載）について10点満点で質問したところ、平均値は6.67点で、**第１回調査より0.11点、前回調査より0.07点それぞれ高く**なっています。

点数の分布をみると、「８点」の割合が23.0％と最も高く、次いで「７点」と「５点」が18.6％となっており、M字型となっています。

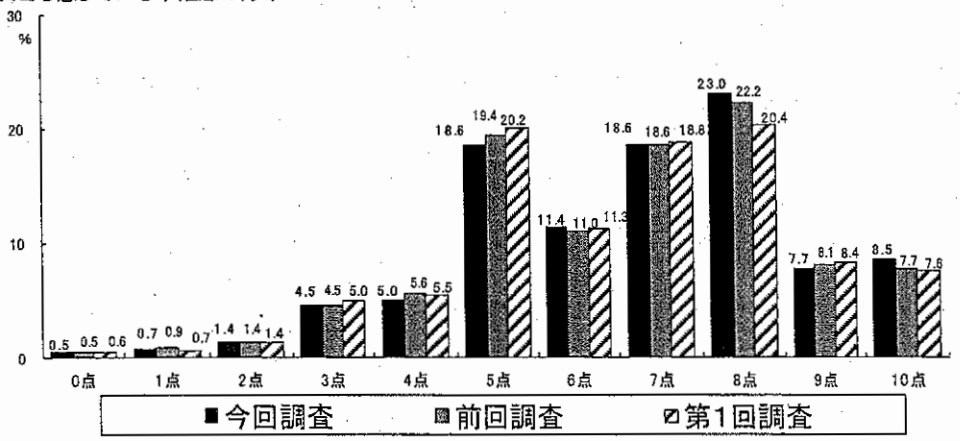
前回調査と比べると、「10点」と「８点」の割合がそれぞれ0.8ポイント高く、「５点」の割合が0.8ポイント、「４点」の割合が0.6ポイントそれぞれ低くなっています。

第１回調査と比べると、「８点」の割合が2.6ポイント高く、「５点」の割合が1.6ポイント低くなっています。

図表2　日ごろ感じている幸福感の平均値



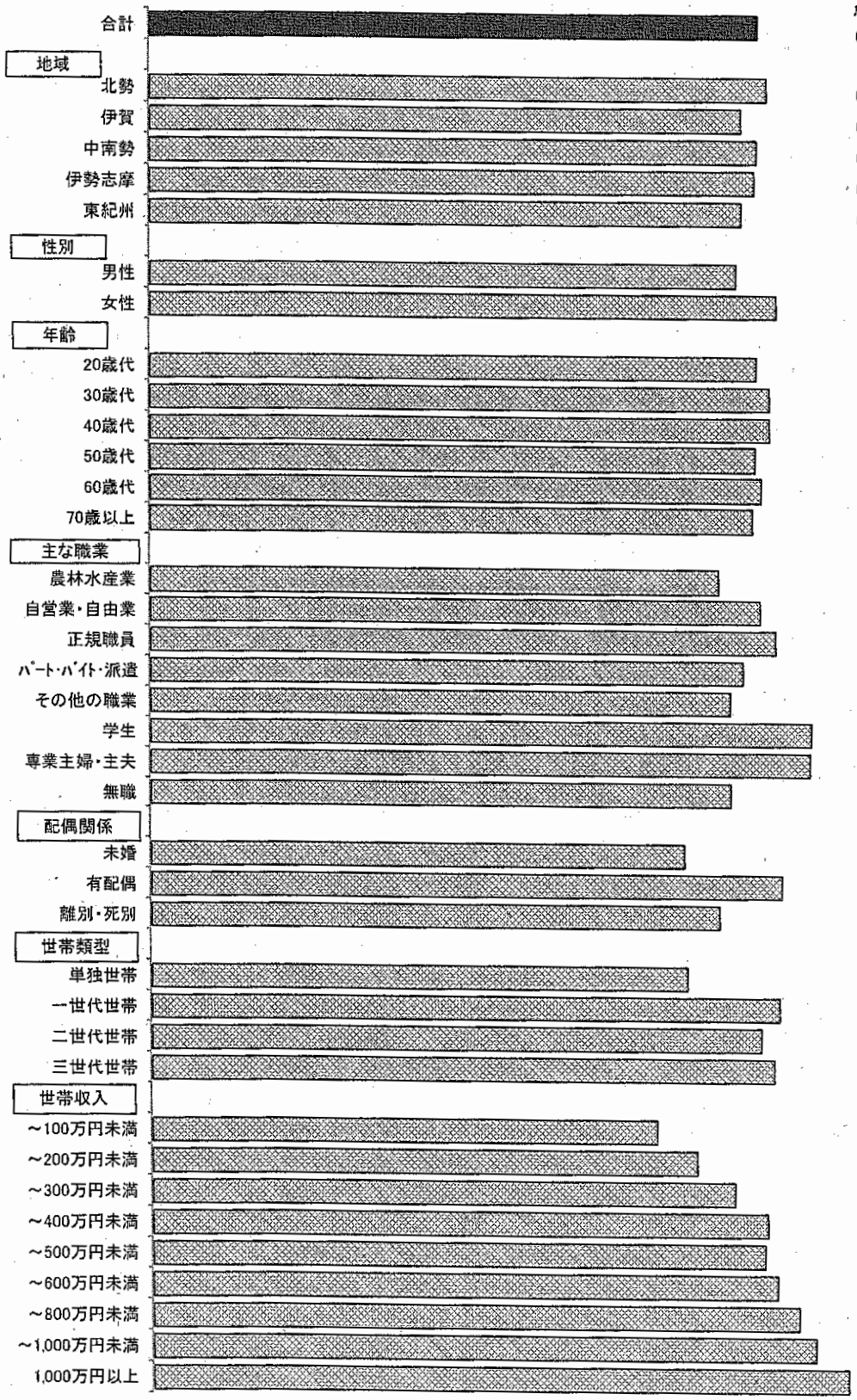
図表3　日ごろ感じている幸福感の分布



図表4　（参考）国及び他県における類似の調査結果（「幸福感」を10点満点で尋ねる調査）

調査名	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度
秋田県 県民意識調査			5.7点 (H23.6)	5.6点 (H24.6)	5.7点 (H25.6)	5.7点 (H26.6)	設問なし (H27.6)
山形県 県政アンケート調査					6.34点 (H25.7)	6.19点 (H26.7)	6.48点 (H27.5)
福岡県 県民意識調査			6.44点 (H23.10)	6.48点 (H24.10)	6.59点 (H25.7)	6.46点 (H26.6)	6.46点 (H27.6)
内閣府 国民生活選好度調査	6.47点 (H22.3)	6.46点 (H23.3)	6.41点 (H24.3)				

図表5　日ごろ感じている幸福感の平均値(属性項目別)



	今回 点	(前回差) ポイント	〈第1回差〉 ポイント
合計	6.67	(0.07)	〈0.11〉
地域			
北勢	6.76	(0.07)	〈0.12〉
伊賀	6.48	(0.06)	〈-0.03〉
中南勢	6.65	(-0.02)	〈0.11〉
伊勢志摩	6.62	(0.19)	〈0.21〉
東紀州	6.48	(0.29)	〈0.01〉
性別			
男性	6.42	(0.11)	〈0.10〉
女性	6.86	(0.01)	〈0.06〉
年齢			
20歳代	6.64	(0.13)	〈0.10〉
30歳代	6.78	(-0.03)	〈-0.07〉
40歳代	6.78	(0.10)	〈0.21〉
50歳代	6.63	(0.03)	〈0.13〉
60歳代	6.69	(0.15)	〈0.20〉
70歳以上	6.60	(0.02)	〈0.05〉
主な職業			
農林水産業	6.21	(-0.40)	〈-0.29〉
自営業・自由業	6.67	(0.03)	〈0.02〉
正規職員	6.85	(0.06)	〈0.16〉
パート・バイト・派遣	6.49	(-0.04)	〈0.10〉
その他の職業	6.35	(0.08)	〈-0.32〉
学生	7.24	(0.20)	〈0.66〉
専業主婦・主夫	7.22	(0.19)	〈0.18〉
無職	6.34	(0.08)	〈0.11〉
配偶関係			
未婚	5.84	(-0.03)	〈0.07〉
有配偶	6.91	(0.08)	〈0.13〉
離別・死別	6.21	(0.04)	〈0.11〉
世帯類型			
単独世帯	5.88	(-)	〈-0.11〉
一世代世帯	6.87	(-)	〈0.13〉
二世代世帯	6.67	(-)	〈0.17〉
三世代世帯	6.81	(-)	〈-0.01〉
世帯収入			
～100万円未満	5.53	(0.21)	〈-〉
～200万円未満	5.96	(0.21)	〈-〉
～300万円未満	6.38	(0.11)	〈-〉
～400万円未満	6.73	(0.18)	〈-〉
～500万円未満	6.70	(0.08)	〈-〉
～600万円未満	6.85	(-0.13)	〈-〉
～800万円未満	7.08	(0.11)	〈-〉
～1,000万円未満	7.27	(0.07)	〈-〉
1,000万円以上	7.63	(-0.07)	〈-〉

※世帯類型については、前回調査と設問が同一でないことから、比較を行っていません。
※世帯収入については、第1回調査と収入区分が同一でないことから、比較を行っていません。

報告書 8～9頁

（2）幸福感を判断する際に重視した事項

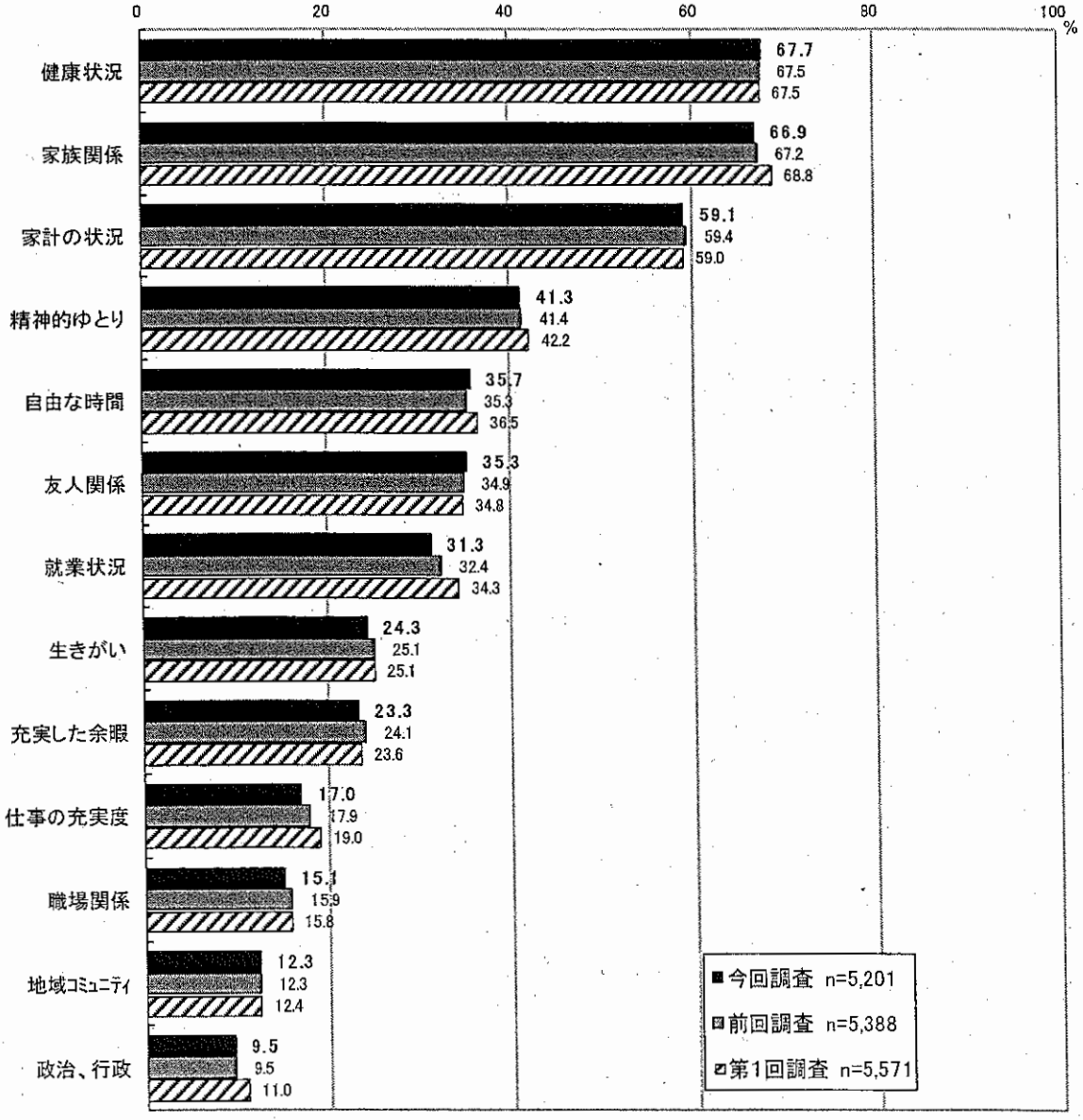
幸福感を判断する際に、重視した事項は何ですか。

※第1回調査から継続して質問しています

幸福感を判断する際に重視した事項は「健康状況」の割合が67.7%で最も高く、次いで「家族関係」（66.9%）、「家計の状況（所得・消費）」（59.1%）となっています。

第1回調査から第3回調査は「家族関係」が最も高くなっていましたが、今回調査も前回調査に引き続き「健康状況」が最も高くなりました。他の項目についても、前回調査の順位から変動はありません。

図表6 幸福感を判断する際に重視した事項〔複数回答〕



報告書 10～11 頁

（3）幸福感を高める手立て

あなたの幸福感を高めるために有効な手立ては何ですか。

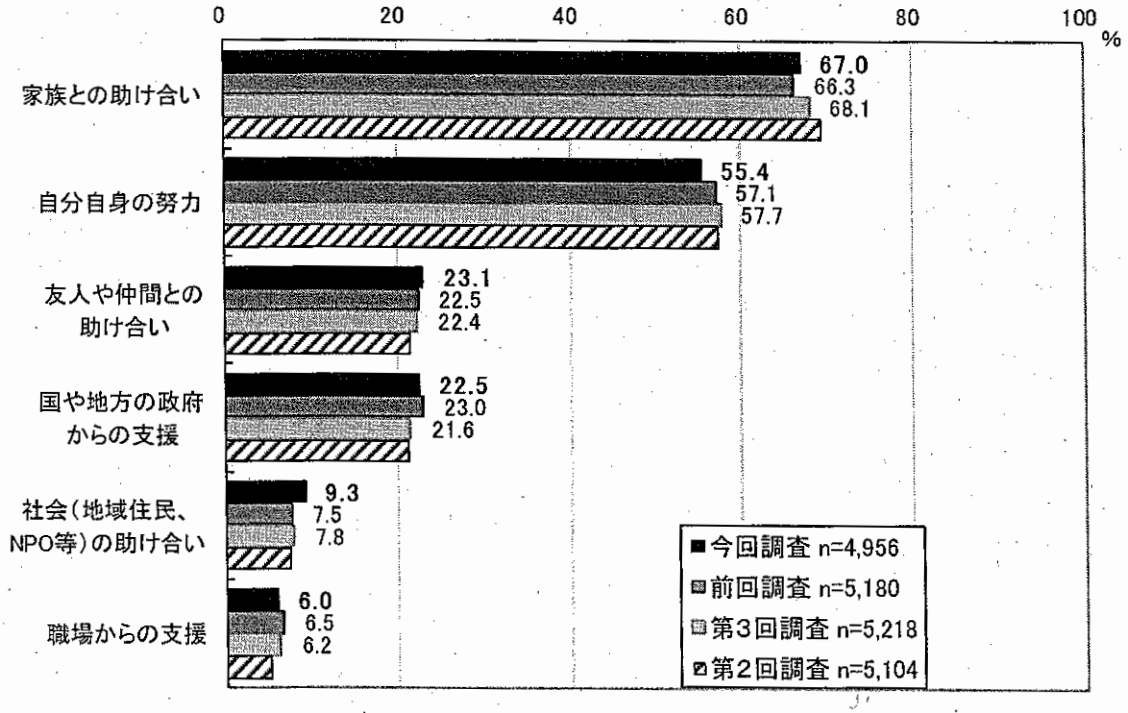
※第2回調査から継続して質問しています

幸福感を高める手立てについては、「家族との助け合い」が67.0%と最も高く、次いで「自分自身の努力」（55.4%）、「友人や仲間との助け合い」（23.1%）となっています。

前回調査との比較では、「家族との助け合い」が 0.7 ポイント、「友人や仲間との助け合い」が 0.6 ポイントそれぞれ高くなった一方、「自分自身の努力」が 1.7 ポイント、「国や地方の政府からの支援」が 0.5 ポイントそれぞれ低くなりました。

「友人や仲間との助け合い」が「国や地方の政府からの支援」と入れ替わり、3番目に高くなったことを除くと、前回調査の順位から変動はありません。

図表7 幸福感を高める手立て〔2つまでの複数回答〕



2　地域や社会の状況についての実感

報告書 13～45 頁

「地域や社会の状況についての実感」は、「みえ県民力ビジョン」で政策分野ごとに設定した１５の「幸福実感指標」に対応した質問となっています。

「幸福実感指標」は、県民の皆さん一人ひとりが生活している中で感じる政策分野ごとの実感の推移を調べ、全体としての幸福実感を把握するための指標です。

地域や社会の状況について、あなたの実感をおうかがいします。

次の（1）から（１５）までの１５の質問それぞれについて、あなたの実感にもっとも近いものを１つだけ選んでください。

（1）災害の危機への備えが進んでいると感じますか。

（2）必要な医療サービスが利用できていると感じますか。

（3）必要な福祉サービスが利用できていると感じますか。

（4）犯罪や事故が少なく、安全に暮らせていると感じますか。

（5）身近な自然や環境が守られていると感じますか。　（第５回調査で質問を変更）

（6）性別や年齢、生涯の有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できていると感じますか。　（第５回調査で質問を変更）

（7）子どものためになる教育が行われていると感じますか。

（8）結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っていると感じますか。（第５回調査で質問を変更）

（9）スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境が整っていると感じますか。（第５回調査で質問を変更）

(10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたいと感じますか。

(11) 三重県産の農林水産物を買いたいと感じますか。

(12) 県内の産業活動が活発であると感じますか。

(13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいると感じますか。

(14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ていると感じますか。

(15) 道路や公共交通機関等が整っていると感じますか。

○ 選択肢はいずれの質問も下記の通りです。

1感じる　2どちらかといえば感じる

3どちらかといえば感じない　4感じない　9わからない

※第1回調査から継続して質問しています

○『実感している層』の割合

地域や社会の状況についての実感を聞いたところ、「感じる」と「どちらかといえば感じる」を合計した『実感している層』の割合は、「(11) 三重県産の農林水産物を買いたい」が 85.5%で最も高くなっています。次いで「(10) 自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい」(73.1%)、「(4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(60.2%) の順で、これまでの5回の調査を通じて同順位となっています。

○『実感していない層』の割合

「感じない」と「どちらかといえば感じない」を合計した『実感していない層』の割合は「(14) 働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている」が 65.5%で、第1回調査以降、継続して最も高くなっています。次いで「(1) 災害等の危機への備えが進んでいる」(56.3%)、「(6) 性別や年齢、生涯の有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている (第5回調査で設問を変更)」(55.5%)、の順となっています。

○前回調査との比較

第5回調査で設問を変更していない 11 項目のうち、前回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは7項目で、増加幅が最も大きかったのは「(13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+5.2 ポイント)、次いで「(7) 子どものためになる教育が行われている」(+2.1 ポイント)、「(12) 県内の産業活動が活発である」(+1.5 ポイント) となっています。また、低くなったのは4項目で、減少幅が最も大きかったのは「(3) 必要な福祉サービスが利用できている」(−3.3 ポイント)、次いで「(4) 犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている」(−2.6 ポイント)、「(15) 道路や公共交通機関等が整っている」(−2.1 ポイント) となっています。

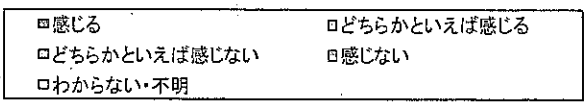
一方、『実感していない層』の割合が低くなったのは 11 項目のうち5項目で、「(13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(−5.1 ポイント) の減少幅が最も大きくなっています。また、高くなったのも5項目で、「(3) 必要な福祉サービスが利用できている」(+2.6 ポイント) の増加幅が最も大きくなっています。

○第1回調査との比較

第1回調査より『実感している層』の割合が高くなったのは 11 項目中8項目で、増加幅が最も大きかったのは「(13) 国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる」(+16.2 ポイント)、次いで「(1) 災害の危機への備えが進んでいる」(+8.1 ポイント)、「(12) 県内の産業活動が活発である」(+6.1 ポイント) となっています。

一方、『実感していない層』の割合は、「(3) 必要な福祉サービスが利用できている」(+1.0 ポイント) 及び「(11) 三重県産の農林水産物を買いたい」(+0.1 ポイント) を除く9項目で第1回調査より低くなっています。

図表8 地域や社会の状況についての実感（一覧）



	実感している層 今回 %	実感している層 (前回差) 〈第1回差〉 ポイント	実感していない層 今回 %	実感していない層 (前回差) 〈第1回差〉 ポイント
(1)災害の危機への備えが進んでいる	32.5	(1.3) 〈8.1〉	56.3	(-1.6) 〈-10.2〉
(2)必要な医療サービスが利用できている	49.0	(-0.5) 〈3.6〉	40.1	(0.8) 〈-5.0〉
(3)必要な福祉サービスが利用できている	29.8	(-3.3) 〈-2.9〉	47.0	(2.6) 〈1.0〉
(4)犯罪や事故が少なく、安全に暮らせている	60.2	(-2.6) 〈1.3〉	33.0	(1.6) 〈-3.4〉
(5)身近な自然や環境が守られている	47.9	(-) 〈-〉	41.9	(-) 〈-〉
(6)性別や年齢、障がいの有無、国籍などにとらわれず、誰もが社会に参画できている	25.8	(-) 〈-〉	55.5	(-) 〈-〉
(7)子どものためになる教育が行われている	33.5	(2.1) 〈5.8〉	45.0	(0.1) 〈-4.9〉
(8)結婚・妊娠・子育てなどの希望がかない、子どもが豊かに育っている	43.3	(-) 〈-〉	39.5	(-) 〈-〉
(9)スポーツをしたり、みたり、支えたりする環境が整っている	41.3	(-) 〈-〉	41.6	(-) 〈-〉
(10)自分の住んでいる地域に愛着があり、今後も住み続けたい	73.1	(0.7) 〈0.0〉	18.6	(-0.6) 〈-1.1〉
(11)三重県産の農林水産物を買いたい	85.5	(1.0) 〈-1.9〉	8.0	(-0.8) 〈0.1〉
(12)県内の産業活動が活発である	33.9	(1.5) 〈6.1〉	45.1	(-2.8) 〈-9.0〉
(13)国内外に三重県の魅力が発信され、交流が進んでいる	33.5	(5.2) 〈16.2〉	47.0	(-5.1) 〈-17.2〉
(14)働きたい人が仕事に就き、必要な収入を得ている	18.5	(0.5) 〈4.8〉	65.5	(0.0) 〈-7.2〉
(15)道路や公共交通機関等が整っている	41.0	(-2.1) 〈3.5〉	51.4	(2.2) 〈-4.5〉

※「実感している層」の割合・・・「感じる」と「どちらかといえば感じる」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
※「実感していない層」の割合・・・「感じない」と「どちらかといえば感じない」の割合を小数点第2位で四捨五入した数値の合計
※割合は、「わからない」や「不明（未回答など）」も分母に含めて算出
※第5回調査で質問を変更したものは、前回調査及び第1回調査と比較していない

3　ご家族に関すること

報告書 66～67 頁

（1）結婚に対する考え方

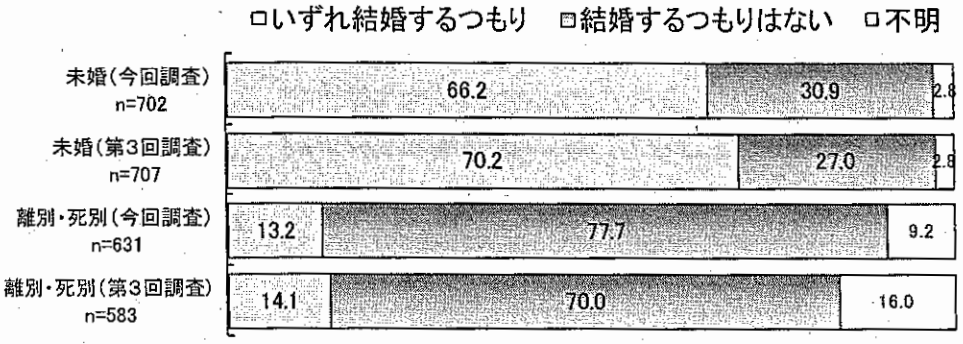
今後の人生を通して考えた場合、あなたの結婚に対する考え方は、次のうちどちらですか。

※第3回調査以来の質問です

結婚に対する考え方を質問したところ、**未婚は「いずれ結婚するつもり」が66.2%**、「結婚するつもりはない」が30.9%となっています。**離別・死別は「いずれ結婚するつもり」が13.2%**、「結婚するつもりはない」が77.7%となっています。

未婚も離別・死別も「いずれ結婚するつもり」が第３回調査より低くなっています。

図表9 結婚に対する考え方



報告書 68～69 頁

（2）結婚していない理由

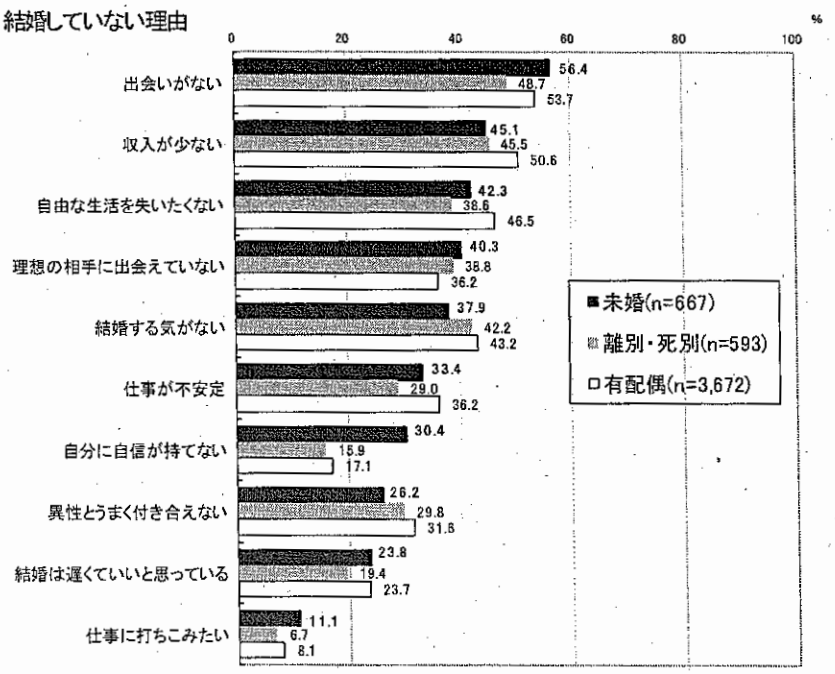
あなたは、未婚の人が結婚していない理由はどんなことだと思いますか。

※新規の質問です

全ての方に、未婚の人が**結婚していない理由**を質問したところ、**未婚、離別・死別、有配偶のいずれも、「出会いがない」の割合が最も高く**、次いで「収入が少ない」の順となっています。

未婚男性は「出会いがない」、「収入が少ない」が同率で最も高く、**未婚女性**は「出会いがない」、「理想の相手に出会えていない」の順に高くなっています。

図表10 結婚していない理由



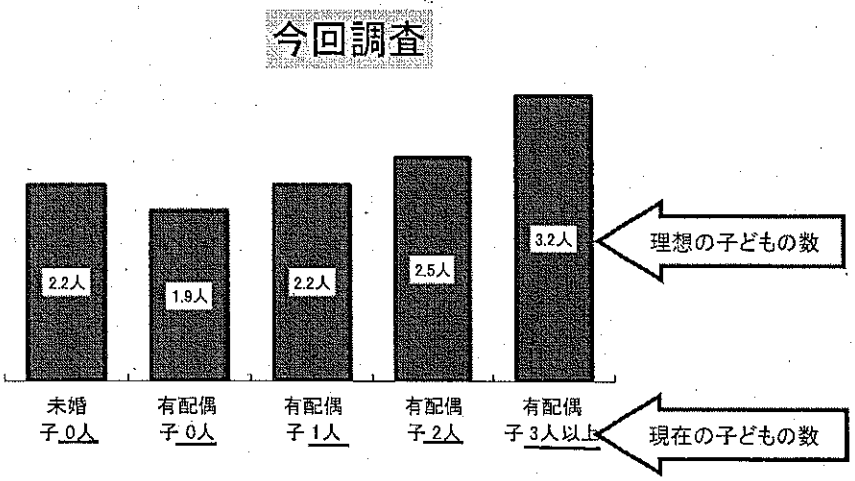
報告書 72～73 頁

（3）子どもの数の理想と現実のギャップ（参考集計）

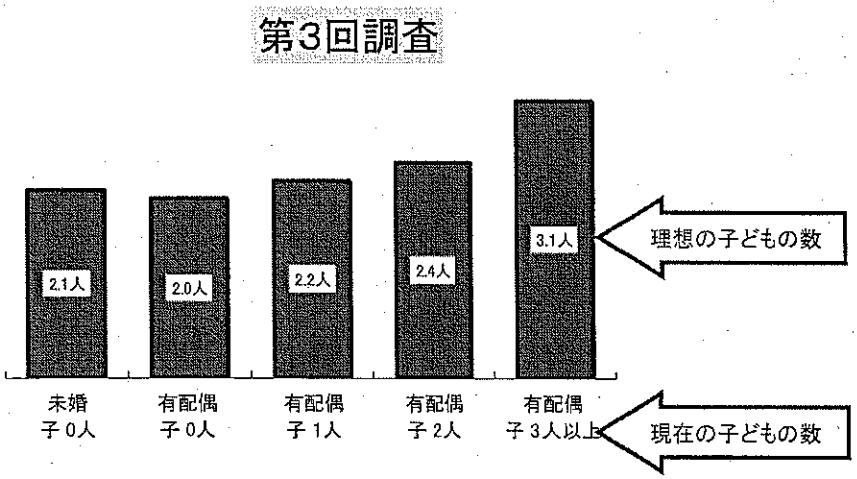
20 歳代～40 歳代を対象に実際の子どもの数と理想の子どもの数の関係を見たところ、理想の子どもの数は、未婚で子どもいない層は 2.2 人、有配偶で子どもがいない層は 1.9 人、有配偶で子ども 1 人の層は 2.2 人、有配偶で子ども 2 人の層は 2.5 人、有配偶で子ども 3 人以上の層は 3.2 人で、**実際の子どもの数は理想の数より少なく**、第 2 回調査及び第 3 回調査と同様の結果となっています。

第 3 回調査と比べると理想の子どもの数は、未婚で子どもがいない層、有配偶で子ども 2 人の層、有配偶で子ども 3 人以上の層で、それぞれ 0.1 人ずつ増加しています。

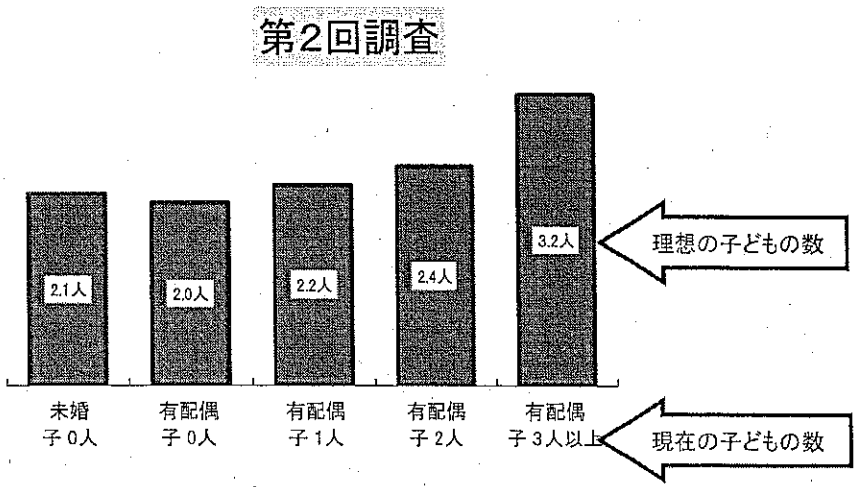
図表 11　20 歳代～40 歳代の子どもの数の理想と現実（今回調査）



図表 12　20 歳代～40 歳代の子どもの数の理想と現実（第3回調査）



図表 13　20 歳代～40 歳代の子どもの数の理想と現実（第2回調査）



報告書 74～75 頁

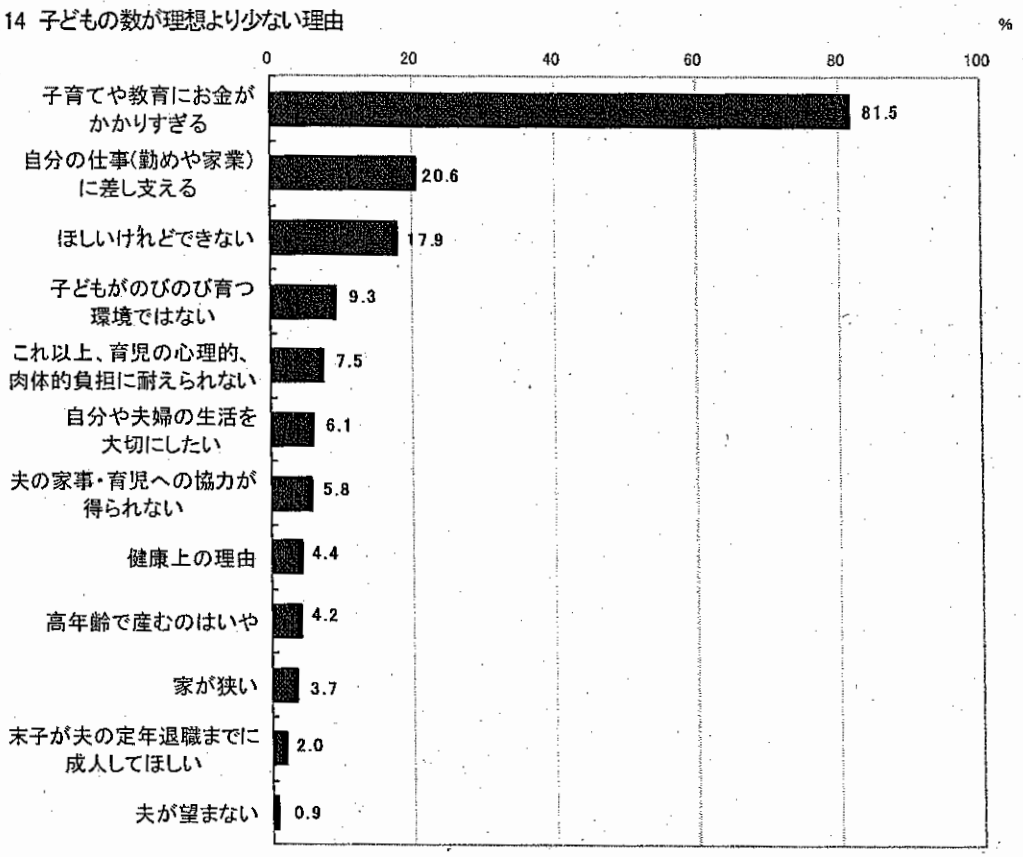
（4）子どもの数が理想より少ない理由

これまでの県の調査では、実際の子どもの数は理想の子どもの数より少なくなっています。あなたは、その理由はどんなことだと思いますか。

※新規の質問です

「子育てや教育にお金がかかりすぎる」の割合が81.5%と特に高く、次いで「自分の仕事(勤めや家業)に差し支える」（20.6%）、「ほしいけれどできない」（17.9%）の順となっています。

図表14 子どもの数が理想より少ない理由



報告書 76～77 頁

（5）介護が必要な家族の有無

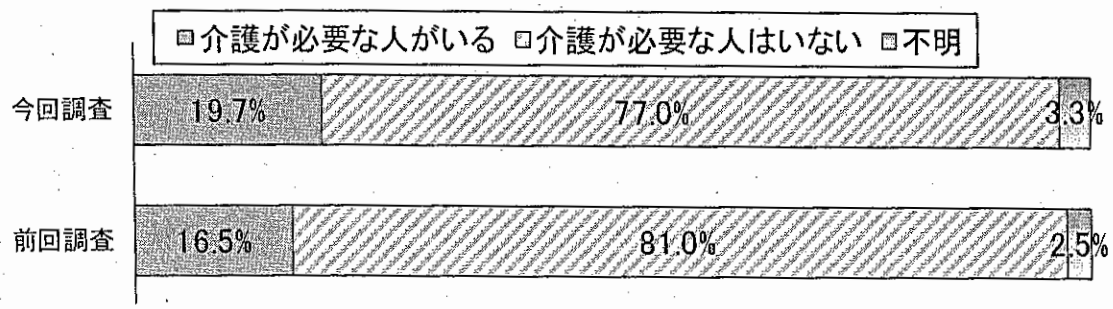
現在、あなたをふくめて、ご家族のうち、介護が必要な方はいますか。

※第4回調査に引き続いての質問です

介護が必要な家族の有無を質問したところ、**「介護が必要な人がいる」の割合が19.7%**、「介護が必要な人はいない」が77.0%で、「介護が必要な人はいない」の割合が高くなっています。

前回調査と比べると、「介護が必要な人がいる」は3.2%高くなっています。

図表15 介護が必要な家族の有無



4　「新しい豊かさ」を享受できる三重づくり

（1）将来の望ましい社会

報告書 80～81 頁

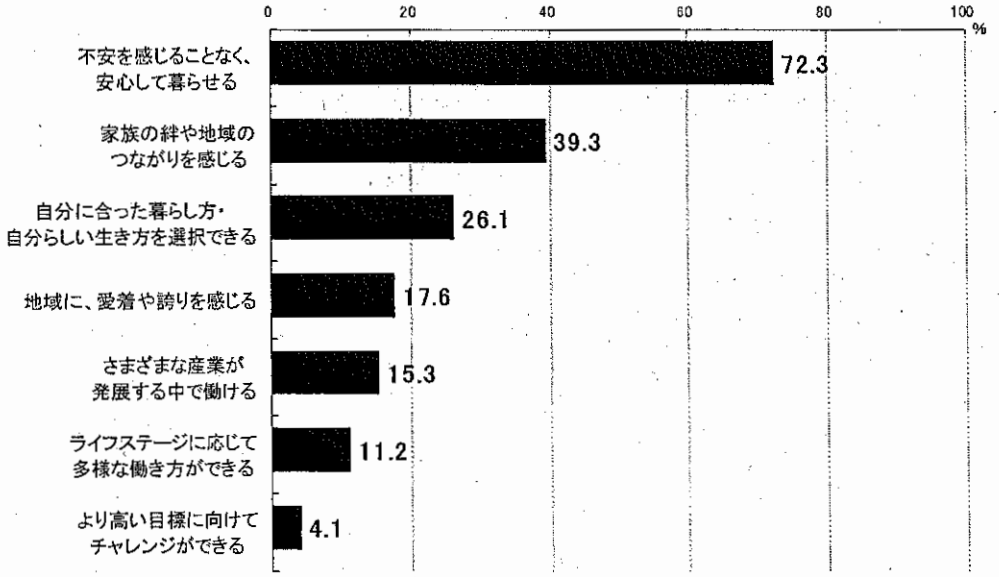
あなたは、将来どんな暮らしができる社会（三重県）が望ましいと思いますか。

※新規の質問です

将来どんな暮らしができる社会（三重県）が望ましいかについて質問したところ、「不安を感じることなく、安心して暮らせる」の割合が72.3%と最も高く、次いで「家族の絆や地域のつながりを感じる」(39.3%)、「自分に合った暮らし方・自分らしい生き方を選択できる」（26.1%）の順となっています。

全ての属性項目で「不安を感じることなく、安心して暮らせる」の割合が最も高くなっています。

図表16 将来の望ましい社会



（2）挑戦できる環境

報告書 82～83 頁

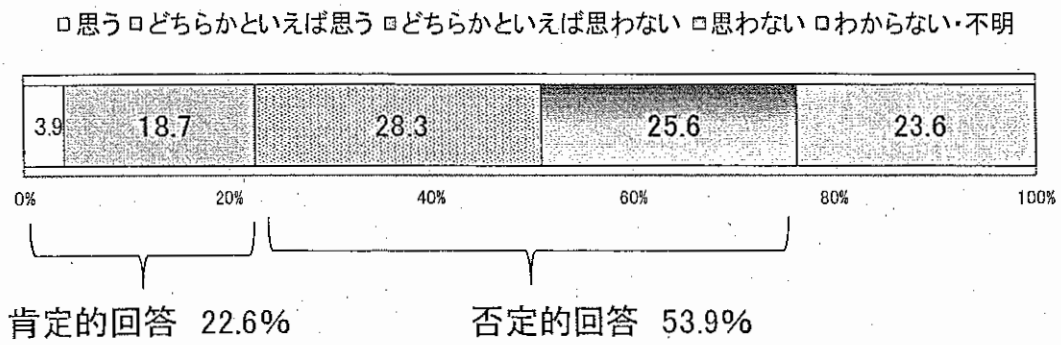
あなたの周りには、かなえたい夢や希望にむけて挑戦できる環境が整っていると思いますか。

※新規の質問です

挑戦できる環境が整っているかについて質問したところ、『否定的回答』の割合が 53.9%で、『肯定的回答』の割合（22.6%）より 31.3 ポイント高くなっています。

年齢（10 歳階級）別では、20 歳代の「肯定的回答」の割合が28.5%で最も高く、世帯年収別では、1,000 万円以上の「肯定的回答」の割合が33.4%で最も高くなっています。

図表17 挑戦できる環境



報告書 84～85 頁

（3）挑戦できる環境として何が必要か

あなたは、自分の意欲や努力以外に、かなえたい夢や希望にむけて挑戦できる環境として、何が必要だと思いますか。

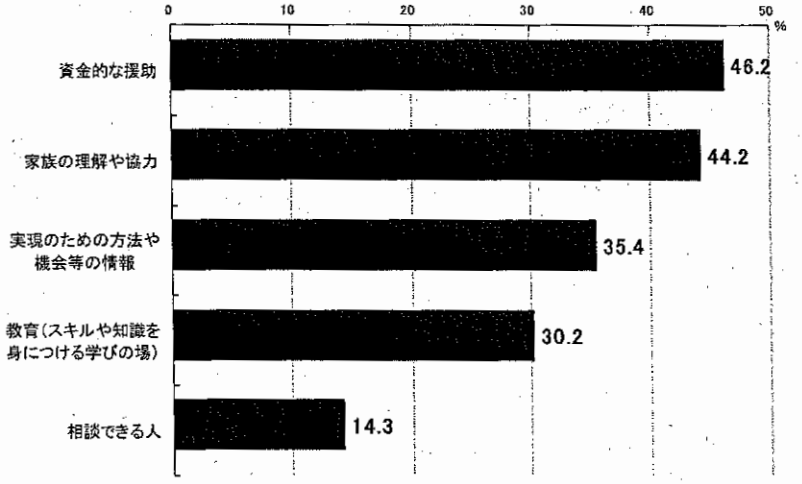
※新規の質問です

かなえたい夢や希望にむけて挑戦できる環境として、何が必要かについて質問したところ、**「資金的な援助」の割合が46.2%と最も高く**、次いで「家族の理解や協力」(44.2%)、「実現のための方法や機会等の情報」（35.4%）、「教育（スキルや知識を身につける学びの場）」（30.2%）、「相談できる人」（14.3%）の順となっています。

男性は「資金的な援助」が最も高く、**女性**は「家族の理解や協力」が最も高くなっています。

年齢（10歳階級）別では、**20歳代～50歳代**で「資金的な援助」が最も高く、**60歳以上**で「家族の理解や協力」が最も高くなっています。

図表18 挑戦できる環境として何が必要か



報告書 86～87 頁

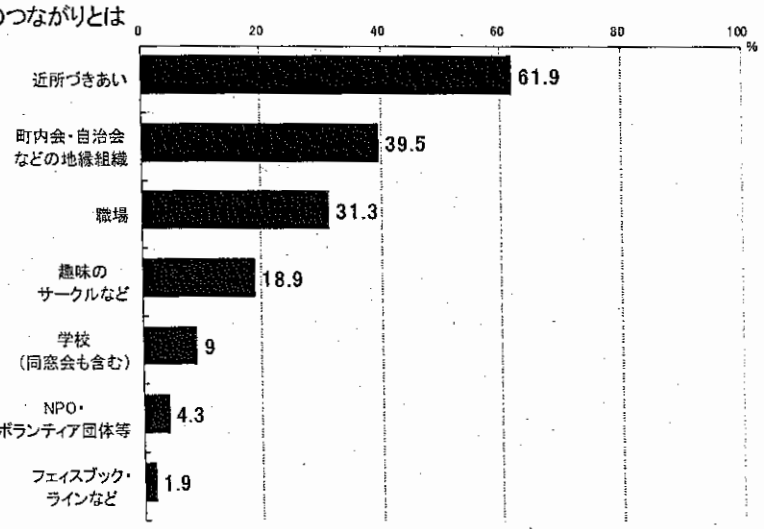
（4）人とのつながりとは

あなたは、安心感のある暮らしを送るために必要な「人とのつながり」とはどのようなものだと思いますか。

※新規の質問です

「人とのつながり」とはどのようなものかについて質問したところ、**「近所づきあい」の割合が61.9%と最も高く**、次いで「町内会・自治会などの地縁組織」(39.5%)、「職場」（31.3%）の順となっています。

図表19 人とのつながりとは



報告書88～89頁

（5）地域の住みやすさ

あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。

※第1回調査から継続して質問するとともに、23年度までの一万人アンケートにおいても継続して質問しています

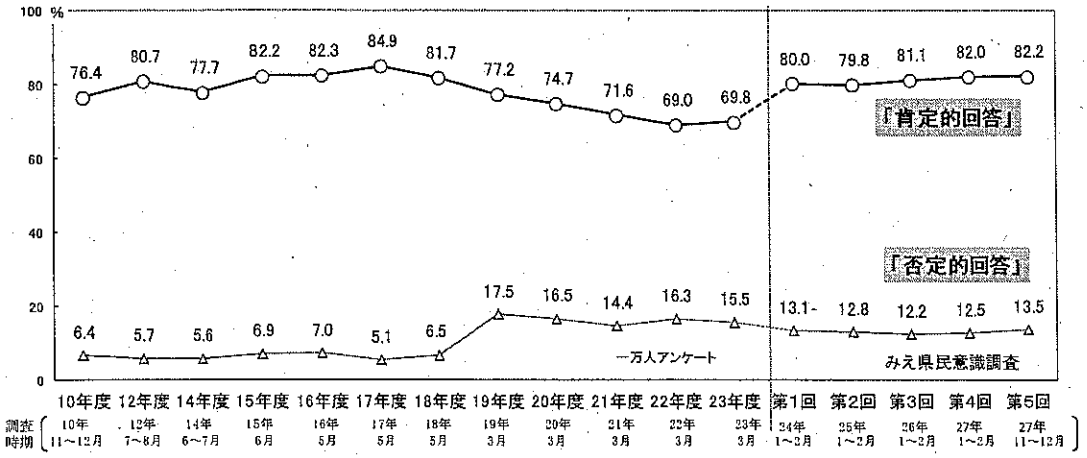
お住まいの地域が住みやすいかについて質問したところ、「住みやすい」と「どちらかといえば住みやすい」を合計した**『肯定的回答』の割合が82.2%**で、「住みにくい」と「どちらかといえば住みにくい」を合計した『否定的回答』の割合（13.5%）より68.7ポイント高くなっています。

前回調査と比較すると『肯定的回答』の割合が0.2ポイント、『否定的回答』が1.0ポイントそれぞれ高くなっています。

第1回調査と比較すると『肯定的回答』の割合が2.2ポイント、『否定的回答』が0.4ポイントそれぞれ高くなっています。

地域の住みやすさについての意識は一万人アンケート（平成10年度～23年度実施）から継続して調査しています。一万人アンケートの結果を含む推移は以下のとおりです。

図表20　（参考）一万人アンケート（23年度まで）とみえ県民意識調査の「地域の住みやすさ」の推移



報告書 92～93頁

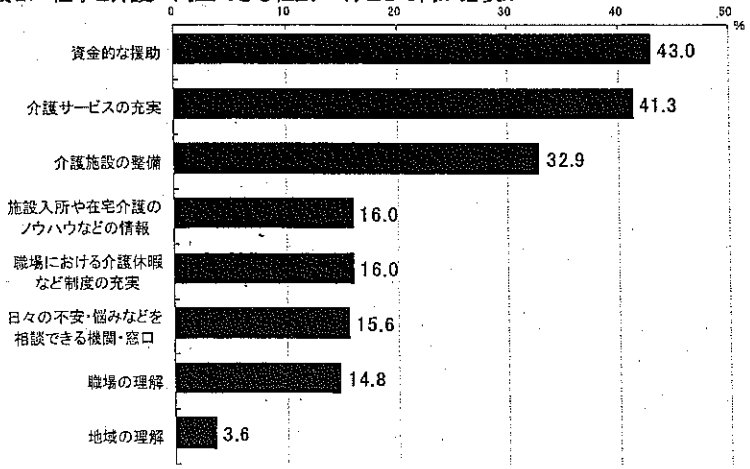
（6）仕事と介護が両立できる社会づくりとして何が必要か

仕事と介護が両立できる社会づくりが望まれますが、そのような社会づくりのために、あなたは、何が必要だと思いますか。

※新規の質問です

仕事と介護が両立できる社会づくりとして何が必要かについて質問したところ、「資金的な援助」の割合が43.0%と最も高く、次いで「介護サービスの充実」(41.3%)、「介護施設の整備」（32.9%）の順となっています。

図表21　仕事と介護が両立できる社会づくりとして何が必要か



報告書 94～95 頁

5 「伊勢志摩サミット」に関すること

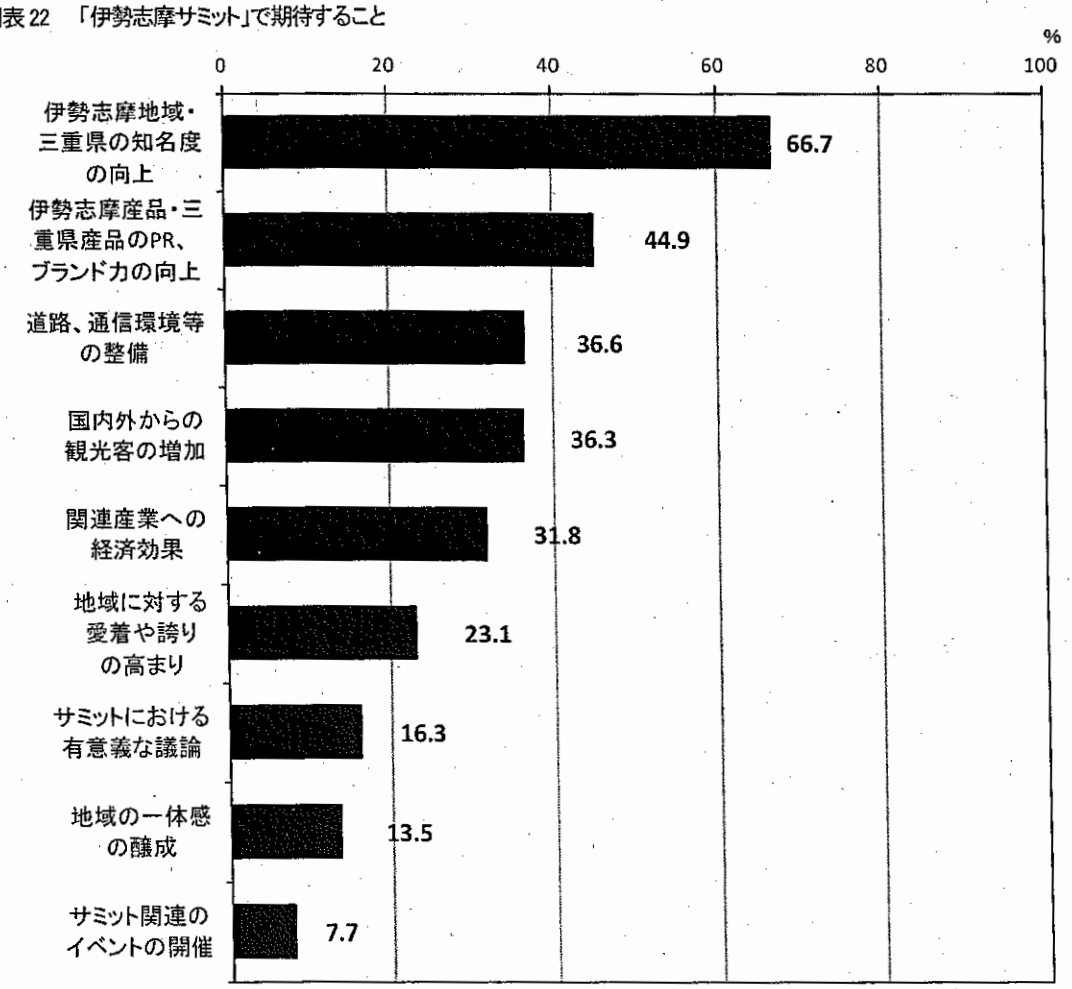
あなたは、来年５月に開催される伊勢志摩サミットでどのようなことを期待していますか。

※新規の質問です

伊勢志摩サミットでどのようなことを期待するかについて質問したところ、「伊勢志摩地域・三重県の知名度の向上」の割合が66.7%と最も高く、次いで「伊勢志摩産品・三重県産品のPR、ブランド力の向上」(44.9%)、「道路、通信環境等の整備」(36.6%)、「国内外からの観光客の増加」(36.3%)の順となっています。

○ 属性や属性項目における主な特徴は次のとおりです。(※統計的有意性は未確認)

・地域別に見ると、「伊勢志摩地域・三重県の知名度の向上」、「地域に対する愛着や誇りの高まり」、「地域の一体感の醸成」については、サミットが開催される**伊勢志摩**がそれぞれ最も高くなっています。また、「伊勢志摩産品・三重県産品のPR、ブランド力の向上」は**中南勢**が最も高く、「道路、通信環境等の整備」、「国内外からの観光客の増加」は**東紀州**がそれぞれ最も高くなっています。

・主な職業別に見ると、「伊勢志摩地域・三重県の知名度の向上」については、**農林水産業**が最も高くなっています。また、「伊勢志摩産品・三重県産品のPR、ブランド力の向上」は**専業主婦・主夫**が、「道路、通信環境等の整備」は**正規職員**が、「国内外からの観光客の増加」は**学生**がそれぞれ最も高くなっています。

図表 22 「伊勢志摩サミット」で期待すること